

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-337274
(43)Date of publication of application : 24.12.1996

(51)Int.Cl.

B65D 81/34

(21)Application number : 07-171506
(22)Date of filing : 13.06.1995

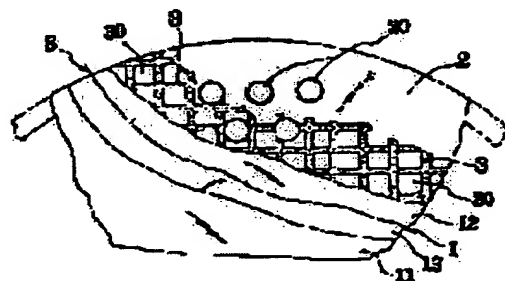
(71)Applicant : NIDAIKI KK
(72)Inventor : YAMADA HIROKI

(54) SEAL LID WITH HOT-WATER DRAINING MECHANISM FOR CUP CONTAINING PRECOOKED FOOD

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a seal lid for a cup containing precooked food, by which the cup can be closed tight by detachably sealing the lid and hot-water poured in the cup can be easily drained.

CONSTITUTION: A sealing lid S consists of a lid main body 1 that is made of a sandwich laminate of a water- and oil proof paper 11, a polyester film 13 and a polyethylene layer 12, and a polyethylene film 2 with through-holes 20 at an end. An adhesive 3 is applied on the polyethylene layer 12 in a lattice pattern and the polyester film 13 is partly bonded on it, so that they are peelably formed into one piece of the sealing lid S by weak bonding. A protruding finger knob 10 is provided at one end of the lid main body 1 and a protruding finger knob is provided on the sealing lid S on the opposite side of the finger knob 10. To detachably mount the sealing lid S on a container, the polyethylene film 2 on the back of the sealing lid S is lightly heat-sealed to the rim of the container. When the lid main body 1 is peeled off a little from the polyethylene film 2, line film 2 remains bonded to the rim and the through-holes 20 are exposed, so that hot-water can be drained.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 01.08.2000
[Date of sending the examiner's decision of rejection] 05.02.2002
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
[Date of final disposal for application]
[Patent number]
[Date of registration]
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-337274

(43) 公開日 平成8年(1996)12月24日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 5 D 81/34

識別記号

庁内整理番号

F 1

B 6 5 D 81/34

技術表示箇所

J

審査請求 未請求 請求項の数 5 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号

特願平7-171506

(22) 出願日

平成7年(1995)6月13日

(71) 出願人 390003160

ニダイキ株式会社

愛知県小牧市外堀3丁目263番地の2

(72) 発明者 山田 大機

愛知県小牧市外堀3丁目263番地の2

ニダイキ株式会社内

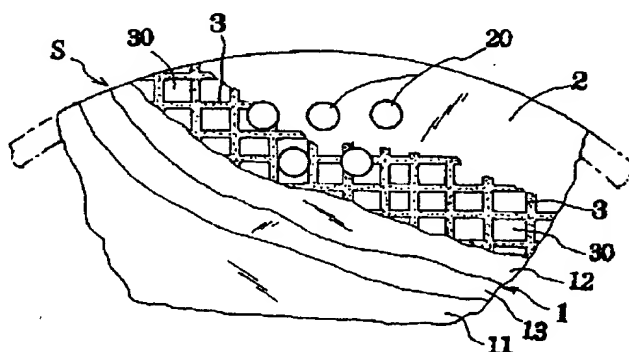
(74) 代理人 弁理士 松島 秀俊

(54) 【発明の名称】 インスタントカップ食品における排湯構造付きシール蓋

(57) 【要約】

【目的】 蓋をシールすることで剥離可能に密閉でき、注いだ湯を簡単に排出できるインスタントカップ食品のシール蓋を提供する。

【構成】 耐水耐油紙11とポリエステルフィルム13とをポリエチレン12のサンドラミネーションを介して接着した蓋本体1と、一端に通孔20を透設したポリエチレンフィルム2とから成り、格子柄部に接着剤3を該ポリエチレン12に塗布してポリエステルフィルム13を部分接着して、軽接着による剥離可能に蓋本体1と一体のシール蓋Sとし、蓋本体1の一端部に指係止部10を突設し、その反対側のシール蓋Sに指係止部Saを突設する。シール蓋Sは裏面のポリエチレンフィルム2が容器4の開口周縁40に軽くヒートシールされて剥離可能に被着される。蓋本体1をポリエチレンフィルム2から少し剥離すると該フィルム2が開口周縁40に残存接着して通孔20が露呈し湯を排出できるのである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 注湯でふやかした後、排湯して適食とする乾燥麺、生麺等の食品を収納した容器の開口部を被着するものにおいて、蓋本体の裏面にプラスチックフィルムを少なくともその一端部を剥離可能に接着すると共に、該剥離部位のプラスチックフィルムに通孔を透設して成り、該裏面のプラスチックフィルムを容器の開口縁に剥離可能に接着して用いることを特徴とするインスタントカップ食品における排湯構造付きシール蓋。

【請求項2】 注湯でふやかした後、排湯して適食とする乾燥麺、生麺等の食品を収納した容器の開口部を被着するものにおいて、蓋本体の裏面に通水性の良好なプラスチック不織布を少なくともその一端部を剥離可能に接着して成り、該裏面のプラスチック不織布を容器の開口縁に剥離可能に接着して用いることを特徴とするインスタントカップ食品における排湯構造付きシール蓋。

【請求項3】 蓋本体における裏面のプラスチックフィルムと剥離する一端部に指係止部を突設すると共に、該指係止部の反対側における蓋本体及び裏面のプラスチックフィルムの他端部に指係止部を突設した請求項1又は請求項2のシール蓋。

【請求項4】 耐水耐油紙の内面に、裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布と異なる材質のプラスチックフィルムを接着した複合材の蓋本体と成し、該蓋本体の内面のプラスチックフィルム或いは裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布の少なくとも一方をコロナ放電処理の未処理フィルムとして接着剤で剥離可能に軽接着した請求項1又は請求項2のシール蓋。

【請求項5】 耐水耐油紙の内面にアルミ箔を接着した蓋本体と成し、該アルミ箔と裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布とを接着剤で剥離可能に軽接着した請求項1又は請求項2のシール蓋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、注湯でふやかし又は熱湯処理した後、排湯して適食とする乾燥麺、生麺等の食品を収納したインスタントカップ容器の排湯構造付きシール蓋に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来の注湯排湯構造のインスタントカップ食品の容器は、焼きそば容器のように、プラスチック蓋を外して注湯し、再び蓋をして乾燥麺をふやかし、ついで蓋に欠設された切欠きを起こして通孔を確保した後、容器を傾けて湯を通孔から安全に排出して湯切りをしていたのである。そして、蓋を外して食していたのである。しかしながら、蓋が着脱自在のため、また蓋に通孔形成のため切欠きが欠設してあることから安全上包装を充分にする必要があったのである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 そこで本発明は、ラーメンやうどんのような注湯インスタント食品容器のように蓋をシールすることで剥離可能に密閉できると共に、排湯構造を施したインスタント食品のシール蓋を提供するものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 このため本発明は、注湯でふやかした後、排湯して適食とする乾燥麺、生麺等の食品を収納した容器の開口部を被着するものにおいて、蓋本体の裏面にプラスチックフィルムを少なくともその一端部を剥離可能に接着すると共に、該剥離部位のプラスチックフィルムに通孔を透設して成り、該裏面のプラスチックフィルムを容器の開口縁に剥離可能に接着して用いる構成の排湯構造付きシール蓋である。また、裏面のプラスチックフィルムを通水性の良好なプラスチック不織布としてもよい。なお、蓋本体における裏面のプラスチックフィルムと剥離する一端部に指係止部を突設すると共に、該指係止部の反対側における蓋本体及び裏面のプラスチックフィルムの他端部に指係止部を突設してもよい。また、耐水耐油紙の内面に、裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布と異なる材質のプラスチックフィルムを接着した複合材の蓋本体と成し、該蓋本体の内面のプラスチックフィルム或いは裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布の少なくとも一方をコロナ放電処理の未処理フィルムとして相互に接着剤で剥離可能に軽接着してもよい。さらに、耐水耐油紙の内面にアルミ箔を接着した蓋本体と成し、該アルミ箔と裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布とを接着剤で剥離可能に軽接着してもよい。

【0005】

【作用】 容器の開口縁に剥離可能に軽接着した複合形成のシール蓋自体を半分位剥離して、容器内に湯を注いだ後、再びシール蓋を容器側に押えて容器を密閉することで収容した乾燥麺等をふやかし、所定時間経過後、剥離した反対側部において容器の開口縁に接着した裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布をそのまま接着残存させた状態で蓋本体だけを少し剥離する。これにより、裏面がプラスチックフィルムの場合は通孔が露呈し、またプラスチック不織布の場合は不織布部が露呈するのであり、このまま容器を傾けることで湯が通孔又は不織布の連続気孔から排出され、その後、シール蓋を容器の開口縁から全部剥離して食すればよい。

【0006】 この際、蓋本体及び裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布の端部に指係止部を突設すれば、その引き上げで簡単にシール蓋が容器から簡単に剥離でき、また蓋本体の端部に指係止部を突設すれば、その引上げで簡単に蓋本体が裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布から剥離できるのである。

【0007】

【実施例】以下、本発明の詳細を図示実施例について説明する。図 1 及び図 2 に示す本例におけるシール蓋 S は、蓋本体 1 の裏面にポリエチレンフィルム 2 を軽接着したものであり、蓋本体 1 は耐水耐油紙 11 とポリエステルフィルム 13 とをポリエチレン 12 のサンドラミネーションを介して接着したものであり、耐水耐油紙 11 は 80g/㎡ 日付のものであり、ポリエチレン 12 の厚みは 15 μm、ポリエステルフィルム 13 の厚みは 12 μm であって円形に形成してある。

【0008】ポリエチレンフィルム 2 の厚みは 50 μm であり、一端に直径 2mm の通孔 20 が近接して多数（本例では）五箇所透設してある。そして、図 1 のように格子柄部に接着剤 3 を印刷塗布してポリエステルフィルム 13 を部分接着することで蓋本体 1 と一体としている。即ち、格子柄形状に接着剤 3 が塗布され、その空間部の無着部 30 の面積が多いことからポリエチレンフィルム 2 とポリエステルフィルム 13 との接着が軽い接着状態となって簡単に剥離可能となるのである。

【0009】なお、シール蓋 S は裏面のポリエチレンフィルム 2 がプラスチック容器 4 の開口周縁部 40 にヒートシールされて被着されるのであるが、プラスチック容器 4 を裏面のポリエチレンフィルム 2 と異なる材質のプラスチック容器、例えばポリプロピレン製とすることにより、完全なヒートシールとしないことから剥離可能に軽接着されるのである。これは通常、イージーピールと称されて従来から行われている。

【0010】本例では、このヒートシールの際に、蓋本体 1 と裏面のプラスチックフィルム 2 とが溶着しないように別材質のポリエステルフィルム 13 とポリエチレンフィルム 2 としたものであり、さらにポリエステルフィルム 13 を、コロナ放電処理が未処理の滑面フィルムとすることで接着剤 3 との接着強度を弱くして一層の軽接着としている。即ち、容器 4 の開口周縁部 40 からのポリエチレンフィルム 2 の剥離強度に比べ、ポリエチレンフィルム 2 からのポリエステルフィルム 13 の剥離強度を弱くしている。

【0011】さらに、蓋本体 1 における裏面のポリエチレンフィルム 2 と剥離する一端部に指係止部 10 を突設すると共に、該指係止部 10 の反対側における蓋本体 1 及び裏面 2 のポリエチレンフィルム 2 の接着他端部に指係止部 S a を突設している。

【0012】このように構成した本例は、図 3 及び図 4 のように、裏面のポリエチレンフィルム 2 をプラスチック容器 4 の開口周縁部 40 にヒートシール被着して使用されるもので、図 5 の仮想線及び図 6 のように、指係止部 S a を持ち容器 4 の開口周縁部 40 からシール蓋 S を引き離して半分位剥離し、容器 4 内に湯を注いだ後、再びシール蓋 S を容器 4 側に押えて容器 4 を密閉することで収容した乾燥麺等をふやかす。

【0013】所定の 2～3 分経過後、図 7 及び図 8 のよ

うに、蓋本体 1 の指係止部 10 を持ち蓋本体 1 を裏面のポリエチレンフィルム 2 から少し剥離する。この状態では裏面のポリエチレンフィルム 2 は開口周縁 40 にそのまま残存接着した状態となっており、通孔 20 が露呈するのである。そして、このまま容器 4 を傾けることで湯が通孔 20 から排出され、麺等は残存したポリエチレンフィルム 2 によって排出を阻止されるのである。その後、指係止部 S a を持ってシール蓋 S を容器 4 の開口周縁 40 から全部剥離して食すればよい。

【0014】このように本例によると、蓋部をシールしたカップ食品にできることから容器内への異物の侵入を防止できて安全であり、しかもシール蓋 S を剥離して湯を注いだ後、蓋本体 1 を剥離することで露呈した通孔 20 から排湯できるものであって扱い易いのである。

【0015】本例は前記の構成としたが、本発明においてはこれに限定されない。例えば、蓋本体の構成は問わず、蓋本体の外面に耐水耐油紙を用いた場合、該耐水耐油紙の表面にプラスチックフィルムを積層コートしてもよい。また、図 8 のように、耐水耐油紙 11 の内面にアルミ箔 5 を接着剤を介してドライラミネーションし、或いは図 9 のように厚手のアルミシート 6 だけでもよい。但し、電子レンジによる使用の場合はアルミ箔の使用を避ける。さらに、シール蓋の裏面のプラスチックフィルムの材質も限定されないが、蓋本体の内面のプラスチックフィルム及び容器の開口縁の材質と異なるプラスチック材が軽接着の点から望ましい。

【0016】また、シール蓋の裏面のプラスチック材としてはプラスチック製不織布でもよく、この場合のプラスチック製不織布の材質も、蓋本体の内面のプラスチックフィルム及び容器の開口縁の材質と異なるプラスチック材が軽接着の点から望ましい。即ち、図 10 のように、耐水耐油紙 11 の内面にサンドラミネーションによってポリエステルフィルム 13 を接着し、接着剤 3 による部分接着によって裏面にポリプロピレン製不織布 7 を剥離可能に接着してもよい。これによりポリエチレン容器の開口縁にヒートシールすることでポリプロピレン製不織布 7 が剥離可能に軽接着されるのである。

【0017】なお、シール蓋の裏面のプラスチック材をフィルムとする場合は、その剥離部に排湯用の通孔を透設する必要があるが、該通孔の大きさや数は適宜である。また、シール蓋の裏面のプラスチック材を不織布とする場合は、その剥離部に排湯用の通孔を透設する必要がなく、不織布内の連続気孔によって排湯が確保されるのである。

【0018】さらに、蓋本体と裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布を少なくともその一端部を剥離可能に軽接着する手段は問わず、接着強度の弱い接着剤を用いて全面接着することでもよい。この場合、蓋本体の内面のプラスチックフィルム或いは裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布の両方或いはい

5

ずれか一方をコロナ放電処理の未処理フィルムとして滑面フィルムとすれば一層軽接着できるのである。なお、裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布をコロナ放電処理の未処理フィルムとすれば接着剤が蓋本体側に接着して剥離されるため衛生上も問題がない。

【0019】また、シール蓋から蓋本体を剥離し易いように指係止部を形成する場合は、蓋本体の表面に粘着テープ等の小片を貼着して指係止部としてもよく、それを引き上げることで裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布を容器に残存させて蓋本体を剥離できるのである。なお、被着するカップ容器の収容食品は問わず、給湯排湯して食するものであればよい。

【0020】

【発明の効果】本発明の請求項1によると、蓋部をシールしたカップ食品にできることから容器内への異物の侵入を防止できて安全であり、しかもシール蓋を剥離して湯を注いだ後、蓋本体を剥離することで残存して被覆状態となっているプラスチックフィルムに露呈された通孔から排湯でき扱い易いのである。

【0021】請求項2では、蓋部をシールしたカップ食品にできることから容器内への異物の侵入を防止できて安全であり、しかもシール蓋を剥離して湯を注いだ後、蓋本体を剥離することで残存して被覆状態となっているプラスチック不織布を通して排湯でき扱い易いのである。

【0021】また、請求項3では、シール蓋が容器から簡単に剥離できると共に、蓋本体が裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布を残して簡単に剥離できるのである。請求項4では、蓋本体と裏面のプラスチックフィルム又はプラスチック不織布とを軽接着できて蓋本体の剥離が極めて容易となるのである。請求項5では、耐水耐油紙の内面にアルミ箔を接着することから強

6

度に優れる蓋本体となるのである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例の要部切欠拡大平面図である。

【図2】その拡大縦断面図である。

【図3】容器に被着した状態の斜視図である。

【図4】その要部の拡大縦断面図である。

【図5】蓋本体を剥離した状態の斜視図である。

【図6】シール蓋を剥離した状態の要部拡大縦断面図である。

【図7】蓋本体を剥離した状態の要部拡大縦断面図である。

【図8】蓋本体の別例の要部の拡大縦断面図である。

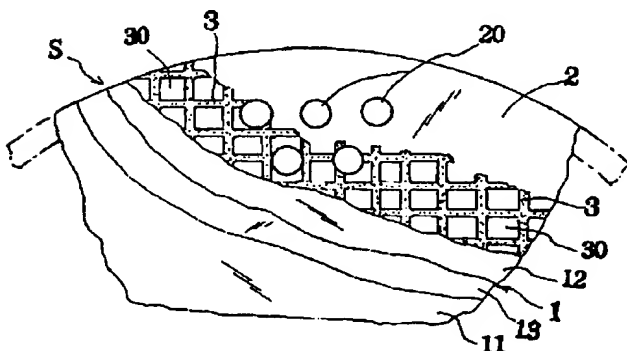
【図9】さらに蓋本体の別例の要部の拡大縦断面図である。

【図10】不織布を裏面のプラスチック材とした別例の要部拡大縦断面図である。

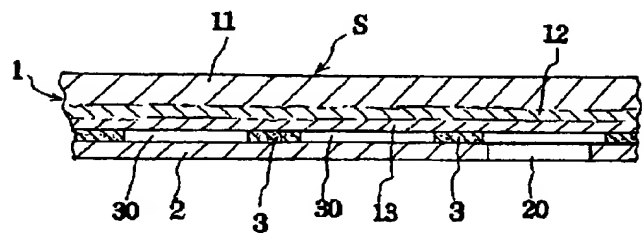
【符号の説明】

- S シール蓋
- 1 蓋本体
- 11 耐水耐油紙
- 12 ポリエチレン
- 13 ポリエステルフィルム
- 2 ポリエチレンフィルム
- 20 通孔
- 3 接着剤
- 30 無着部
- 4 容器
- 40 開口周縁部
- 5 アルミ箔
- 6 アルミシート
- 7 プラスチック製不織布

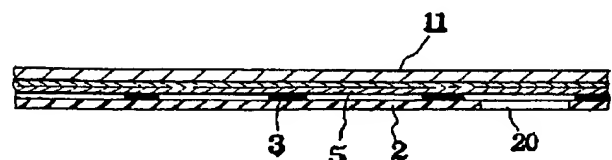
【図1】



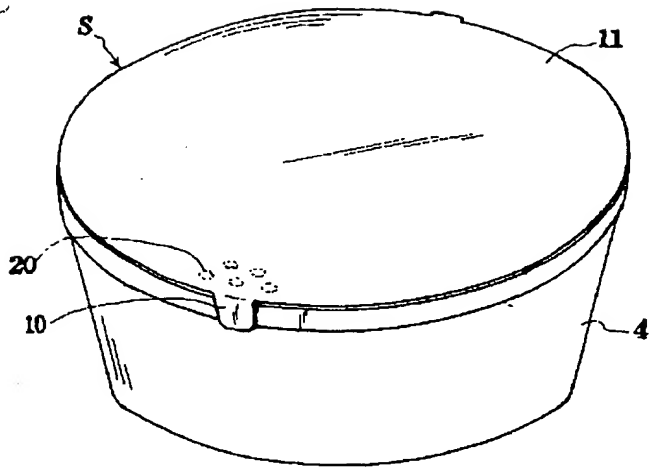
【図2】



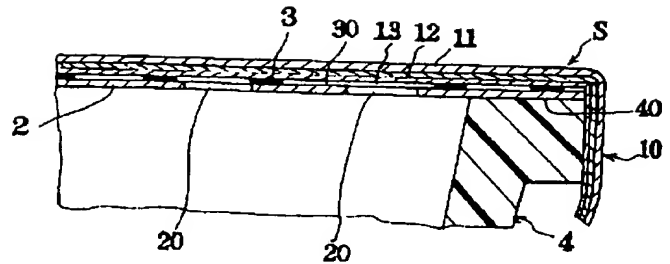
【図8】



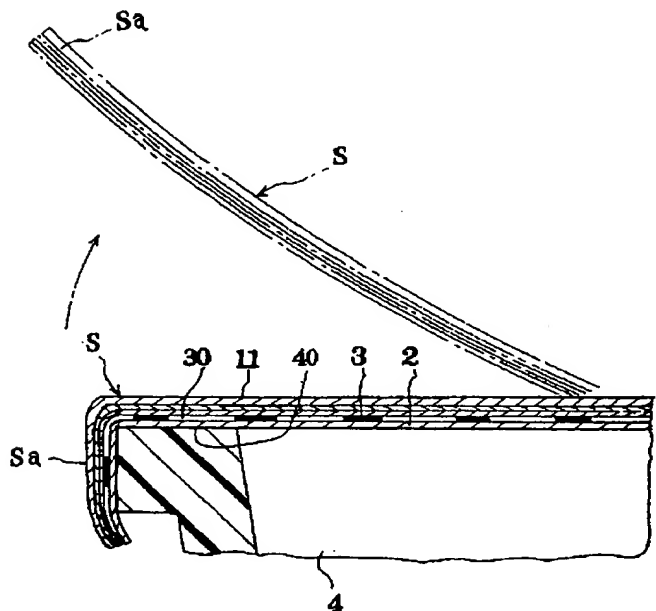
【図 3】



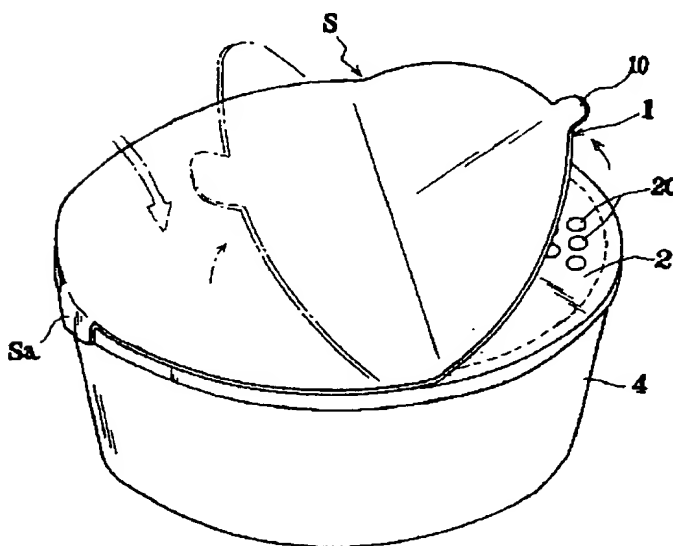
【図 4】



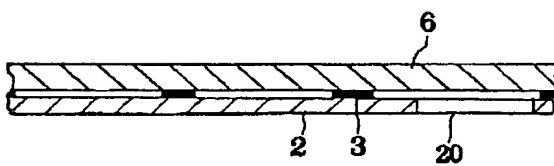
【図 6】



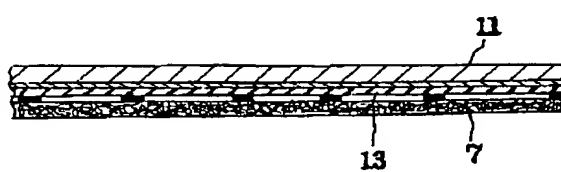
【図 5】



【図 9】



【図 10】



(6)

特開平8-337274

【図7】

